

**E N E O S スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE**  
**Rd.2 鈴鹿サーキット****上位争いの中、決勝終盤エンジントラブルでリタイア**

4月18日(土)～19日(日)、三重県の鈴鹿サーキットにてスーパー耐久シリーズ第2戦が開催された。ST-2クラスとしては2年ぶりの鈴鹿戦、5時間で争われるレースに Honda R&D Challenge は全エントリーで唯一、かつチーム初のドライバー2名体制で参戦した。

**QUALIFY / 予選**

前日の練習走行でトラブルに見舞われてテスト時間が削られ、メンバー総出でマシン修復を間に合わせた4/18(土)の予選。前戦までに培ってきたマシンの地力で戦う中、Aドライバー-石垣選手が2分16秒587、Bドライバー-尾藤選手が2分15秒745のタイムを記録。A/Bドライバー合算タイムでクラス3番手となった。

**<予選リザルト>**

Pos.	No.	Car	A Dr. Time	B Dr. Time	Total Time
1	95	SPOON リジカラ CIVIC	2'16.287	2'15.310	4'31.597
2	72	OHLINS CIVIC NATS	2'16.142	2'16.112	4'32.254
3	743	Honda R&D Challenge FL5	2'16.587	2'15.745	4'32.332
4	13	ENDLESS GR YARIS	2'18.608	2'16.896	4'35.504
5	36	HCM 内野製作所 FL5	2'19.096	2'17.723	4'36.819
6	6	新菱オート DXL☆ネオグローブ EVO X	2'19.943	2'17.538	4'37.481
7	7	新菱オート DXL☆MART☆VARIS エボ	2'40.809	2'18.455	4'59.264
8	225	KTMS GR YARIS	計測出来ず	計測出来ず	-

## RACE / 決勝

決勝レースは 12:04 にスタート。石垣選手はライバルの隙を落ち着いて狙い、オープニングラップに#72 をパスして 2 位に浮上。先行する首位の#95、後方の#13 とはペースがほぼ同等。上位 3 台は GAP 数秒でワンミスが命取りの緊張感の中でレース展開していく。30 周目に尾藤選手にバトンタッチしたタイミングで#13 に先行を許すが、45 周目の 130R でインを突いて 2 位に再浮上、再度#95 への猛追を図る。ただ走行中にミッションに違和感を覚え始め、労わりながらの走行となりタイムが伸び切らない中でも何とか GAP は堅持。61 周目に再度石垣選手へバトンタッチした直後に FCY が導入されるが、順位に変動はなく 2 位を維持しながら速く安定したタイムで周回を重ねる。94 周目、最後のピット作業を終えて尾藤選手が最後の力を振り絞って追い上げにかかる。だがここでボンネットから僅かに白煙が出始め、周回を重ねるごとに状況が悪化。何とかラップタイムは落とさず追い上げを続けていたが、5 周経過時点でオレンジディスク掲示により PIT インを余儀なくされる。すぐさまメカニックがトラブル状況を確認するもチェッカーまでの残り時間では対応ができず、そのままタイヤを喫した。



### <決勝リザルト>

Pos.	No.	Car	Laps	Total Time	Gap
1	95	SPOON リジカラ CIVIC	125	5:02'23.670	
2	13	ENDLESS GRYARIS	125	5:03'17.201	53.531
3	72	OHLINS CIVIC NATS	124	5:01'35.967	1Lap
4	6	新菱オート DXL ネオグローブ EVO X	123	5:03'30.751	2Laps
5	7	新菱オート DXL☆MART☆VARIS エボ	122	5:01'32.156	3Laps
6	36	HCM 内野製作所 FL5	122	5:03'19.963	3Laps
7	225	KTMS GR YARIS	100	5:02'20.341	25Laps
* * * 以上完走 (規定周回数 ST-2 : 87Laps) * * *					
-	<b>743</b>	<b>Honda R&amp;D Challenge FL5</b>	<b>102</b>	<b>4:07'26.858</b>	<b>23Lap</b>

## ドライバーコメント

### A ドライバー 石垣博基



練習走行での周回数が限られた中でしたが、セットアップの確認や予選アタックの確認など効率的にメニューを消化できるようメカやエンジニアのメンバー達が頑張ってくれたことに助けられました。予選は色々ミスもあり満足のいくタイムが残せず、鈴鹿サーキットはドライバーにとってチャレンジングなコースであると再確認しましたが、決勝では予選の反省点を活かしてタイムと燃費のバランスの良い走りができたと感じています。前戦のもてぎで反省点だった細かなミスを減らすこともでき、混走の中で安定したラップを刻むことができたのは大きな自信になりました。

現地ではピットワークをはじめ、多くの皆さんに応援をいただき感謝いたします。ありがとうございました。

### B ドライバー 尾藤成



前日走行でミッショントラブルが発生してしまいましたが、メカニック達が何とかマシン修復を間に合わせてくれました。持ち込みのセットアップも十分戦えるレベルだったこともあり、ほとんどテストメニューはこなせない中で B ドラ予選 2 位を獲得できました。1 周にまとめ上げる力は付いてきたもののミスも散見されるため、次戦以降で更なるスキル up を図ります。決勝では常にライバルと拮抗するペースを維持できていた一方で、クラス違い車両と絡んだ際のタイムロスを最小限に抑えるという点では課題があったと感じており、レースペースを最大化する余地がまだまだであると反省しております。クラス 2 位を走行している中でエンジントラブルは、非常に悔しく言葉を失ってしまいましたが、あの場ではメンバー全員がやれる事をやり切ってくれたと思っています。この経験を今後のレースに確実に活かしていきます。

現地や S 耐 TV で応援してくださった方、ご支援いただいている方々に感謝いたします。精進していきますので、引き続きよろしく願いいたします。

### チーム代表コメント 石垣博基

今大会は限られたチームメンバーで参戦し、その多くが初めての作業を担当するなどチャレンジングな週末でした。加えて車両トラブルなどでレースウィークの走行量も十分とはいえない状況ではありましたが、これまでの経験を基にチーム全体が高いレベルで戦うことができたと感じています。

クラス 2 位走行からのリタイヤは非常に悔しいですし、2022 年から続けてきた全戦完走も途切れてしまいましたが、今回のような経験もチームが成長する糧になると考えています。いま我々に足りていないものは何か、しっかり振り返った上で次戦以降また強くなって戻ってきたいと思います。

本活動を通じて Honda 従業員レース活動の目的である「ヒトづくり」に貢献してまいりますので、今後とも変わらぬご支援・ご鞭撻のほど、何卒よろしく願い申し上げます。

## ポイントランキング

Rank	No	Car	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	Total
1	95	SPOON リジカラ CIVIC	20.00	32.00			---			52.00
2	13	ENDLESS GR YARIS	10.00	22.50			---			32.50
3	72	OHLINS CIVIC NATS	6.00	18.00			---			24.00
4	225	KTMS GR YARIS	15.00	6.00			---			21.00
5	36	HCM 内野製作所FL5	8.00	9.00			---			17.00
6	6	新菱オートDXL☆ネオグローブEVO X	2.00	15.00			---			17.00
7	743	Honda R&D Challenge FL5	12.00	0.00			---			12.00
8	7	新菱オートDXL☆MART☆VARISエボ	0.00	12.00			---			12.00
9	67	YAMATO CIVIC	4.00	---			---			4.00



< 問い合わせ先 >

チーム代表 石垣 博基 Hiroki\_Ishigaki@jp.honda